



いちにいち・ぷれす 121 press.

せんがわ劇場応援マガジン 第7号 (平成26年10月20日発行/企画・編集:せんがわ劇場市民サポーター)

「JAZZ ART せんがわ2014」 〜野生に還る音 親密な関係 生きる芸術〜

今回で7回目を迎える「JAZZ ART せんがわ」が、9月6日土、7日(日)に開催されました。創造性の高い前衛的な音楽・アートパフォーマンスを中心に、先端を行く演奏家スリットをあてたこのイベントには、国内外で活躍する日本人ミュージシャンに加え、ニューヨーク・イタリア・インドネシア等からもミュージシャンが参加しました。「市民鑑賞モニター」としてこのフェスティバルに参加された、市民サポーターの才目さんのレポートを抜粋してご紹介します。

7年目を迎える歴史の重み
身近なフリージャズの祭典に驚嘆

第一に、「フリージャズ」あるいは「自由集団即興」の音楽フェスが、都市部の公共劇場を舞台として、市民のきわめて身近で展開されていたことに驚きました。7年目を迎えるという歴史の重み、内容においても前衛音楽の最先端を行く分厚いものであることを確認いたしました。

近年、大友良英氏の「あまちゃんバンド」が有名になったように、自由即興演奏やノイズ系音楽への一般認知



仙川の街中に置かれた「JAZZ 屏風」での演奏の一コマ。様々なミュージシャンが参加し、街のあちこちに移動して、ごく親密な距離で、市民が音や音楽に接してもらおう試みがなされた。

が大きく広がっています。坂本龍一氏もメディアアを通じて、芸術としての即興音楽の普及に尽力してこられました。「JAZZ ART せんがわ」が、時代に先んじて企画・実施され、現在まさに世の流れをリードするも



ジャワ島から初来日した実験的音楽デュオ・センヤワと、ベルリン・東京を拠点に活動する内橋和久、巻上公一率いるヒカシュー、フリージャズ黎明期から活動している沖至(トランペット)のセッション。



平田康子(ボーカル)、竹中俊二(ギター)、石井彰(ピアノ)、山崎比呂志(ドラム)、鼓道研究会、それに4人のベーシスト井野信義、加藤久志、遠藤定、藤原清登のセッション。

のようになっていくことは大きな意義のあることだと感じました。

♪世界レベルの素晴らしい演奏と子供も楽しめる即興パフォーマンス

次に、演奏内容においては、坂田明氏+チェンタツオ氏+藤原清登氏のセッションは、フリージャズの王道を行く、世界レベルの素晴らしい演奏であったことは特筆しておきたいと思えます。一方、サンマチでは巻上公一氏の「宇宙語パフォーマンス」に場内の子供たちが思わず大声を上げて笑いました。子供の「即興」を受け取る力は凄いものだと感じました。サンマチ常連のお客様もロシア連邦ト

ウバ共和国の珍しい楽器やホームメイ(ホーミー)と呼ばれる独特の唱法を用いた声の即興パフォーマンスにしきりに感心されていました。

総合プロデューサー・巻上公一氏は「密度・強度において最高の音楽フェスでありたい」とその思いを語ります。ドイツの「メールス・ジャズ・フェスティバル」のように、「そこへ行けば時代の最先端の音楽が聴ける」メッカとして、せんがわ劇場が日本に、世界に知られるのは素晴らしいことです。この貴重な音楽フェスが今後も継続されることを期待します。

※サンマチとは? 調布市せんがわ劇場で毎月1〜2回、日曜日の午前11時から開催されている、約45分間の無料コンサート「サンデー・マティネ・コンサート」の通称です。